

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-175146

(43)Date of publication of application : 21.06.2002

(51)Int.Cl.

G06F 3/02  
G06F 3/023  
H03M 11/08  
G06F 15/02  
G07G 1/12

(21)Application number : 2000-374226

(71)Applicant : SHARP CORP

(22)Date of filing : 08.12.2000

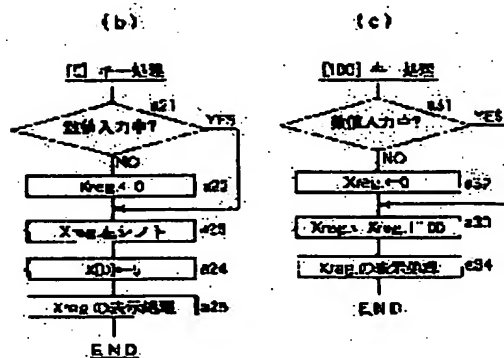
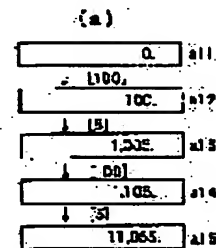
(72)Inventor : KAYA SHUJI  
KUNO MICHIAKI

## (54) INFORMATION PROCESSOR

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide an information processor having both a ten key input system such as a desk-top calculator and a denomination input system such as a register.

**SOLUTION:** A display value indicates '0.' in an initial state indicated in a step a11, and then, when pushing a '100' key, 100 is added, and the display value becomes, '100.' as a step a12, and then, when pushing a '5' key of ten keys, a shift is inputted, and the display value becomes '1,005.' as a step a13, and then when pushing a '100' key, 100 is added to the present display value '1,005.', and the display value becomes '1,105.' as a step a14, and then, when pushing a '5' key of the ten keys, the shift is inputted, and the display value becomes '11,055.' as a step a15.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(51) IntCl <sup>7</sup>	識別記号	F I	テリトリー (参考)
G 0 6 F 3/02	3 6 0	G 0 6 F 3/02	3 6 0 E 3 E 0 4 2
3/023		15/02	3 1 0 J 5 B 0 1 9
H 0 3 M 11/08			3 4 0 B 5 B 0 2 0
G 0 6 F 15/02	3 1 0	G 0 7 G 1/12	3 0 1 F
3 4 0		G 0 6 F 3/023	3 1 0 K

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2000-374226(P2000-374226)

(22) 出願日 平成12年12月8日 (2000.12.8)

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72) 発明者 加悦 周治

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ  
ャープ株式会社内

(72) 発明者 久野 道明

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ  
ャープ株式会社内

(74) 代理人 100075557

弁理士 西教 圭一郎

最終頁に続く

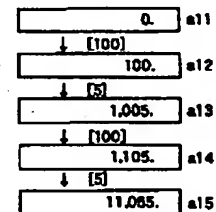
(54) 【発明の名称】 情報処理装置

(57) 【要約】

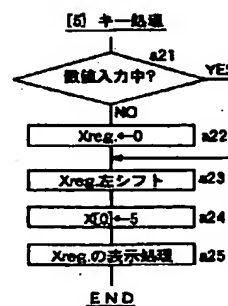
【課題】 電卓などのテンキー入力方式とレジスタなどの金種入力方式の両方を兼ね備える情報処理装置を提供する。

【解決手段】 ステップ a 1 1 に示す初期状態において表示値は「0.」を示し、次に「1 0 0」キーを押すと 1 0 0 を加算し、ステップ a 1 2 のように表示値は「1 0 0.」となり、次にテンキーの「5」キーを押すとシフト入力され、ステップ a 1 3 のように表示値は「1, 0 0 5.」となり、次に「1 0 0」キーを押すと、現在の表示値「1, 0 0 5.」に対して 1 0 0 を加算し、ステップ a 1 4 のように表示値は「1, 1 0 5.」となり、次にテンキーの「5」キーを押すとシフト入力され、ステップ a 1 5 のように表示値は「1 1, 0 5 5.」となる。

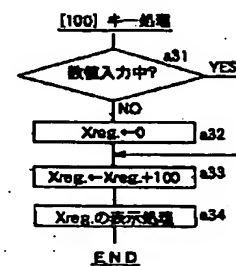
(a)



(b)



(c)



【特許請求の範囲】

【請求項1】 1回の操作で複数桁の数字を入力するための第1数値入力部と、

数字を1桁ずつシフト入力するための第2数値入力部と、

入力された数字を記憶するための数値記憶部と、

数字を演算するための演算処理部とを備え、

第1数値入力部で数字が入力された場合、演算処理部は該数字を数値記憶部に記憶された数字に対して加算することを特徴とする情報処理装置。

【請求項2】 1回の操作で複数桁の数字を入力するための第1数値入力部と、

数字を1桁ずつシフト入力するための第2数値入力部と、

入力された数字を記憶するための数値記憶部と、

数字を演算するための演算部とを備え、

第1数値入力部および第2数値入力部のうち一方が操作された後に他方が操作された場合、演算処理部は数値記憶部をクリアしてから他方の操作によって入力された数字を処理することを特徴とする情報処理装置。

【請求項3】 1回の操作で複数桁の数字を入力するための第1数値入力部と、

数字を1桁ずつシフト入力するための第2数値入力部と、

第1数値入力部で入力された数字を記憶するための第1数値記憶部と、

第2数値入力部で入力された数字を記憶するための第2数値記憶部と、

数字を演算するための演算処理部と、

演算結果を表示するための数値表示部とを備え、

演算処理部は、第1および第2数値記憶部に記憶された数字の加算値を処理することを特徴とする情報処理装置。

【請求項4】 数字を入力するための数値入力部と、

入力された数字を記憶するための数値記憶部と、

数字を演算するための演算処理部と、

入力された数字を訂正するための数値訂正部とを備え、

数値訂正部が操作された場合、演算処理部は、数値記憶部に記憶された数字において「0」以外の数のうち最下位桁の数を1つ小さくすることを特徴とする情報処理装置。

【請求項5】 請求項1～4のいずれかに記載の情報処理装置を電子計算機上で実現するためのプログラムを記録した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、入力された数字を演算処理する情報処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の電子卓上計算機（電卓）は、0～

9の数値や小数点を1桁ずつ入力するためのテンキーを有し、金銭レジスタはテンキーだけでなく複数の金種キーを持つ機種もある。また、入力した数値を間違え、1回キーが押される前の状態に戻したい場合、カーソルキー「←」等を操作して最右桁の数値を削除することで訂正を行う機種がある。

【0003】関連する先行技術として、特開平7-234903号には、現金自動預金支払機での入力操作において、一定の数値が表示された定額キーをいくつか用意して、数値入力が1回のキー操作で可能になる取引処理方法が記載されている。

【0004】また、特開昭58-58678号には、計算の途中経過において前回入力を訂正できる小切手管理機能付計算機が記載されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】特開平7-234903号では、定額キーによってキー操作が簡素になるが、電卓のようなテンキー入力機能は備えていないため、1円単位の数値入力が困難になる。

【0006】特開昭58-58678号では、数値入力を終えてから計算用のキーを押した後に計算途中経過を修正するものであり、入力中の数値を訂正するものでない。

【0007】また、カーソルキー「←」等の操作は入力操作と異なるため、煩雑である。本発明の目的は、電卓などのテンキー入力方式とレジスタなどの金種入力方式の両方を兼ね備える情報処理装置を提供することである。

【0008】また本発明の目的は、入力中の数値を簡単な操作で訂正できる情報処理装置を提供することである。

【0009】また本発明の目的は、該情報処理装置を電子計算機上で実現するためのプログラムを記録した記録媒体を提供することである。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明は、1回の操作で複数桁の数字を入力するための第1数値入力部と、数字を1桁ずつシフト入力するための第2数値入力部と、入力された数字を記憶するための数値記憶部と、数字を演算するための演算処理部とを備え、第1数値入力部で数字が入力された場合、演算処理部は該数字を数値記憶部に記憶された数字に対して加算することを特徴とする情報処理装置である。

【0011】本発明に従えば、1回の操作で複数桁の数字を入力できる金種入力方式と数字を1桁ずつシフト入力できるテンキー入力方式とを兼ね備えるため、数値入力操作が簡便になる。

【0012】たとえば、第1数値入力部で「12,000」を入力した後、第2数値入力部で「5」を入力すると、従前の入力数値に対して加算して、現在の入力数値

は「120, 005」になる。逆に、第2数値入力部で「12」を入力した後、第1数値入力部で1000キーを押すと、従前の入力数値に対して加算して、現在の入力数値は「1, 012」になる。

【0013】こうして金種入力方式による簡便性をテンキー入力方式にも活用することができる。

【0014】また本発明は、1回の操作で複数桁の数字を入力するための第1数値入力部と、数字を1桁ずつシフト入力するための第2数値入力部と、入力された数字を記憶するための数値記憶部と、数字を演算するための演算部とを備え、第1数値入力部および第2数値入力部のうち一方が操作された後に他方が操作された場合、演算処理部は数値記憶部をクリアしてから他方の操作によって入力された数字を処理することを特徴とする情報処理装置である。

【0015】本発明に従えば、1回の操作で複数桁の数字を入力できる金種入力方式と数字を1桁ずつシフト入力できるテンキー入力方式とを兼ね備えるため、数値入力操作が簡便になる。

【0016】たとえば、第1数値入力部で「12, 000」を入力した後、第2数値入力部で「5」を入力すると、従前の入力数値をクリアして、現在の入力数値は「5」になる。逆に、第2数値入力部で「12」を入力した後、第1数値入力部で1000キーを押すと、従前の入力数値をクリアして、現在の入力数値は「1, 000」になる。

【0017】こうして金種入力方式による簡便性をテンキー入力方式にも活用することができる。

【0018】また本発明は、1回の操作で複数桁の数字を入力するための第1数値入力部と、数字を1桁ずつシフト入力するための第2数値入力部と、第1数値入力部で入力された数字を記憶するための第1数値記憶部と、第2数値入力部で入力された数字を記憶するための第2数値記憶部と、数字を演算するための演算処理部と、演算結果を表示するための数値表示部とを備え、演算処理部は、第1および第2数値記憶部に記憶された数字の加算値を処理することを特徴とする情報処理装置である。

【0019】本発明に従えば、1回の操作で複数桁の数字を入力できる金種入力方式と数字を1桁ずつシフト入力できるテンキー入力方式とを兼ね備えるため、数値入力操作が簡便になる。

【0020】たとえば、第1数値入力部で「12, 000」を入力した後、第2数値入力部で「5」を入力すると、従前の入力数値に対して加算して、現在の入力数値は「12, 005」になる。逆に、第2数値入力部で「12」を入力した後、第1数値入力部で1000キーを押すと、従前の入力数値に対して加算して、現在の入力数値は「1, 012」になる。

【0021】こうして金種入力方式による簡便性をテンキー入力方式にも活用することができる。

【0022】また本発明は、数字を入力するための数値入力部と、入力された数字を記憶するための数値記憶部と、数字を演算するための演算処理部と、入力された数字を訂正するための数値訂正部とを備え、数値訂正部が操作された場合、演算処理部は、数値記憶部に記憶された数字において「0」以外の数のうち最下位桁の数を1つ小さくすることを特徴とする情報処理装置である。

【0023】本発明に従えば、従前の入力数値を全てクリアしないで、「0」以外の数について部分的に訂正できるため、従前の数値入力操作が無駄にならずに済み、全体の操作が簡便になる。

【0024】たとえば、従前の入力数値が「12, 400」である場合、数値訂正部で訂正操作すると、「0」以外の数のうち最下位桁の数「4」を1つ小さくして、現在の入力数値は「12, 300」になる。再び訂正操作すると、「12, 200」になり、順次「12, 100」「12, 000」となり、次は「11, 000」「10, 000」となって、最後に「0」になる。

【0025】また本発明は、上記の情報処理装置を電子計算機上で実現するためのプログラムを記録した記録媒体である。

【0026】本発明に従えば、上記のような情報処理装置を電子計算機上で実現することができる。

【0027】

【発明の実施の形態】図1は、本発明に係る情報処理装置の構成を示すブロック図である。電子計算機1は、CPU（中央処理装置）2と、ROM（リードオンリメモリ）3と、RAM（ランダムアクセスメモリ）4と、表示装置5と、キーボード6などで構成され、必要に応じてスイッチ7と、外部記憶装置8が搭載される。

【0028】CPU2は、ROM3に格納されたプログラムに従って動作し、たとえばキー入力読み込み処理、数値入力処理、四則演算を含む計算処理、数値表示処理など各種処理を実行する。

【0029】ROM3は、CPU2の処理プログラムや表示用フォント等を記憶する。RAM4は、CPU2の処理に必要なデータを格納するワークエリアを含み、各種レジスタ、各種フラグなどが設けられる。そのうちXレジスタ4aには置数値、演算結果などが格納される。Yレジスタ4bには演算途中経過の値が格納される。X2レジスタ4cには、2つ目の置数値が格納される。

【0030】表示装置5は、LCD（液晶ディスプレイ）およびその駆動回路などで構成され、入力数値や演算結果などを表示する。

【0031】キーボード6は、数値を1桁ずつ入力するテンキーとして「0」キー～「9」キー、「.」（小数点）キーと、ゼロ2桁やゼロ3桁が一度に入力可能な「00」キー、「000」キーと、数値100や数値500、数値1000が一度に入力可能な金種キーとして「100」キー、「500」キー、「1000」キー

と、四則演算を指示する「+」キー、「-」キー、「×」キー、「÷」キー、「=」キーと、入力数字を訂正するための訂正キー、などを有する。

【0032】スイッチ7は、演算結果の丸め処理方法の指定や各種設定を行う機能を有する。

【0033】外部記憶装置8は、データやプログラムを格納した記録媒体を読み取る機能を有する。

【0034】図2は本発明の第1実施形態を示し、図2(a)は表示内容の変化を示す説明図で、図2(b)はテンキー入力時の動作を示すフローチャートで、図2(c)は金種キー入力時の動作を示すフローチャートである。

【0035】まず表示例について説明する。図2(a)のステップa11に示す初期状態において表示値は「0。」を示し、次に「100」キーを押すと100を加算し、ステップa12のように表示値は「100。」となる。次にテンキーの「5」キーを押すとシフト入力され、現在の表示値「100」を上位桁に左シフトし最下位桁に「5」を入れて、ステップa13のように表示値は「1,005。」となる。次に「100」キーを押すと、現在の表示値「1,005。」に対して100を加算し、ステップa14のように表示値は「1,105。」となる。次にテンキーの「5」キーを押すとシフト入力され、現在の表示値「1,105」を上位桁に左シフトし最下位桁に「5」を入れて、ステップa15のように表示値は「11,055。」となる。

【0036】このときテンキー入力の動作に関して、たとえば「5」キーが押されると、図2(b)のステップa21においてCPU2は数値入力の最初か途中かを判定する。既に数値入力中であればステップa23へ移行する。最初の数値入力であればステップa22へ移行し、Xレジスタ4aに「0」を代入してクリアする。

【0037】次にステップa23において、CPU2はXレジスタ4aに格納された数値を上位桁に左シフトして、次にステップa24において、Xレジスタ4aの最下位桁X[0]に「5」を入れて、次にステップa25において、CPU2はXレジスタ4aの数値を読み出して表示装置5へ出力する表示処理を行う。ここでは「5」キーの入力処理を例示したが、他のテンキーについても同様な処理を行う。なお、小数点キーについても通常の電卓と同様な処理を行う。

【0038】一方、金種キー入力の動作に関して、たとえば「100」キーが押されると、図2(c)のステップa31においてCPU2は数値入力の最初か途中かを判定する。既に数値入力中であればステップa33へ移行する。最初の数値入力であればステップa32へ移行し、Xレジスタ4aに「0」を代入してクリアする。

【0039】次にステップa33において、CPU2はXレジスタ4aに格納された数値に対して金種キーに対応した数値100を加算して、次にステップa34にお

いてCPU2はXレジスタ4aの数値を読み出して表示装置5へ出力する表示処理を行う。ここでは「100」キーの入力処理を例示したが、他の金種キーについても同様な処理を行う。

【0040】こうして通常のテンキー入力方式と金種入力方式を併用できるため、数値入力操作の簡便性が向上する。

【0041】図3は本発明の第2実施形態を示し、図3(a)は表示内容の変化を示す説明図で、図3(b)はテンキー入力時の動作を示すフローチャートで、図3(c)は金種キー入力時の動作を示すフローチャートである。

【0042】図2の数値入力方式では、たとえば「5」キーを2回、「100」キーを2回押す場合、「100」「5」「100」「5」の順で押したときと、「100」「100」「5」「5」の順で押したときで入力される数値が異なる。そのためキーの押す順番を間違えると、クリアして再度入力し直す必要がある。実際には、1回の数値入力毎にいずれかの入力方式で入力する可能性が高い。そこで、両方の数値入力キーの数値が混在しないように、前回押した数値入力キーと今回押した数値入力キーの種類が異なる場合、一旦数値をクリアしてから入力処理を行うことで、使用者の操作が簡便になる。

【0043】まず表示例について説明する。図3(a)のステップb11に示す初期状態において表示値は「0。」を示し、次に「100」キーを押すと100を加算し、ステップb12のように表示値は「100。」となる。次にテンキーの「5」キーを押すと、現在の表示値「100」をクリアした後、最下位桁に「5」を入れて、ステップb13のように表示値は「5。」となる。次に「100」キーを押すと、現在の表示値「5。」をクリアした後、100を加算して、ステップb14のように表示値は「100。」となる。次にテンキーの「5」キーを押すと、現在の表示値「100」をクリアした後、最下位桁に「5」を入れて、ステップb15のように表示値は「5。」となる。

【0044】このときテンキー入力の動作に関して、たとえば「5」キーが押されると、図3(b)のステップb21においてCPU2は数値入力の最初か途中かを判定する。最初の数値入力中であればステップb23へ移行する。既に数値入力中であればステップb22へ移行し、CPU2は前回の操作が金種キーであるかを判定し、金種キーであればステップb23へ移行する。金種キーでなければテンキー入力が継続中であると考えて、ステップb24へ移行する。

【0045】次にステップb23において、Xレジスタ4aに「0」を代入してクリアする。次にステップb24において、CPU2はXレジスタ4aに格納された数値を上位桁に左シフトして、次にステップb25におい

て、Xレジスタ4aの最下位桁X[0]に「5」を入れて、次にステップb26において、CPU2はXレジスタ4aの数値を読み出して表示装置5へ出力する表示処理を行う。ここでは「5」キーの入力処理を例示したが、他のテンキーについても同様な処理を行う。なお、小数点キーについても通常の電卓と同様な処理を行う。

【0046】一方、金種キー入力動作に関して、たとえば「100」キーが押されると、図3(c)のステップb31においてCPU2は数値入力の最初か途中かを判定する。最初の数値入力中であればステップb33へ移行する。既に数値入力中であればステップb32へ移行し、CPU2は前回の操作がテンキーであるかを判定し、テンキーであればステップb33へ移行する。テンキーでなければ金種キー入力が継続中であると考えて、ステップb34へ移行する。

【0047】次にステップb33において、Xレジスタ4aに「0」を代入してクリアする。次にステップb34において、CPU2はXレジスタ4aに格納された数値に対して金種キーに対応した数値100を加算して、次にステップb35においてCPU2はXレジスタ4aの数値を読み出して表示装置5へ出力する表示処理を行う。ここでは「100」キーの入力処理を例示したが、他の金種キーについても同様な処理を行う。

【0048】こうして通常のテンキー入力方式と金種入力方式を併用でき、しかも入力キーの種類が変化すると数値を一旦クリアするため、数値入力操作の簡便性が向上する。

【0049】図4は本発明の第3実施形態を示し、図4(a)は表示内容の変化を示す説明図で、図4(b)はテンキー入力時の動作を示すフローチャートで、図4(c)は金種キー入力時の動作を示すフローチャートである。

【0050】図3の数値入力方式では、1回の数値入力はいずれかの入力方式に限られてしまう。そこで、1回の数値入力でも両方のキー入力を許容することで、使用者の操作が簡便になる。

【0051】まず表示例について説明する。図4(a)のステップc11に示す初期状態において表示値は「0.」を示し、次に「100」キーを押すと100を加算し、ステップc12のように表示値は「100.」となる。次にテンキーの「5」キーを押すと、「100」キーの入力に関係なく、最下位桁に「5」を入れて、ステップc13のように表示値は「105.」となる。次に「100」キーを押すと、「5」キーの入力に関係なく、100を加算して、ステップc14のように表示値は「205.」となる。次にテンキーの「5」キーを押すと、「100」キーの入力に関係なく、前回までのテンキー入力数値を上位桁に左シフトして最下位桁に「5」を入れて、ステップc15のように表示値は「255.」となる。

【0052】このときテンキー入力動作に関して、たとえば「5」キーが押されると、図4(b)のステップc21においてCPU2は数値入力の最初か途中かを判定する。既に数値入力中であればステップc23へ移行する。最初の数値入力であればステップc22へ移行し、CPU2はXレジスタ4aおよびX2レジスタ4cに「0」をそれぞれ代入してクリアする。

【0053】次にステップc23において、CPU2はXレジスタ4aに格納された数値を上位桁に左シフトして、次にステップc24において、Xレジスタ4aの最下位桁X[0]に「5」を入れて、次にステップc25において、CPU2はXレジスタ4aおよびX2レジスタ4cの各数値を読み出して加算した結果を表示装置5へ出力する表示処理を行う。ここでは「5」キーの入力処理を例示したが、他のテンキーについても同様な処理を行う。なお、小数点キーについても通常の電卓と同様な処理を行う。

【0054】一方、金種キー入力動作に関して、たとえば「100」キーが押されると、図4(c)のステップc31においてCPU2は数値入力の最初か途中かを判定する。既に数値入力中であればステップc33へ移行する。最初の数値入力であればステップc32へ移行し、Xレジスタ4aおよびX2レジスタ4cに「0」をそれぞれ代入してクリアする。

【0055】次にステップc33において、CPU2はX2レジスタ4cに格納された数値に対して金種キーに対応した数値100を加算して、次にステップc34においてCPU2はXレジスタ4aおよびX2レジスタ4cの各数値を読み出して加算した結果を表示装置5へ出力する表示処理を行う。ここでは「100」キーの入力処理を例示したが、他の金種キーについても同様な処理を行う。

【0056】こうしてテンキー入力用のXレジスタ4aと金種入力用のX2レジスタ4cを用意し、両者の加算結果を表示することで、数値入力操作の簡便性が向上する。

【0057】図5は本発明の第4実施形態を示し、図5(a)は従来の訂正手順を示す説明図で、図5(b)は本発明の訂正手順の一例を示す説明図で、図5(c)は訂正動作を示すフローチャートである。

【0058】まず図5(a)のステップd1において表示値は「18.」を示し、「8」は入力ミスで「7」に訂正する場合、カーソルキー「←」を押して前回のシフト入力を削除してステップd2のように表示値を「1.」に戻して、次に「7」キーをシフト入力してステップd3のように表示値を「17.」に訂正する。

【0059】次に図5(b)のステップd11において表示値は「2,100.」を示し、次に訂正キーを押すと、表示された数値のうち「0」以外の数のうち最下位桁の数、すなわち百の位の数をも1つ小さくして、ステッ

ブ d 1 2 のように表示値を「2, 0 0 0 .」に訂正する。次に訂正キーを押すと、表示された数値のうち「0」以外の数のうち最下桁の数、すなわち千の位の数を1つ小さくして、ステップ d 1 3 のように表示値を「1, 0 0 0 .」に訂正する。

【0060】このとき訂正動作に関して、訂正キーが押されると、図5(c)のステップ d 2 1 においてCPU 2 は数値入力 of 最初か途中かを判定する。最初の数値入力中であればステップ d 2 6 へ移行し、訂正キー操作を無視する。既に数値入力であればステップ d 2 2 へ移行し、CPU 2 はXレジスタ4 a の数値変数X[i]を示すポインタ i に「0」を代入する。次にステップ d 2 3 において、CPU 2 はX[i]の数値が「0」か否かを判定し、「0」でなければステップ d 2 4 へ移行してポインタ i を1つ加算して、次にステップ d 2 3 に戻る。こうして「0」でない数値変数X[i]を下位桁から順番に調べる。

【0061】「0」でない数値変数X[i]が見つければ、ステップ d 2 5 へ移行し、数値変数X[i]を1つ減算して、次にステップ d 2 6 においてCPU 2 はXレジスタ4 a の数値を読み出して表示装置5へ出力する表示処理を行う。

【0062】こうして「0」以外の数について部分的に訂正できるため、従前の数値入力操作が無駄にならずに済み、全体の操作が簡便になる。

【0063】

【発明の効果】以上詳説したように本発明によれば、1回の操作で複数桁の数字を入力できる金種入力方式と数字を1桁ずつシフト入力できるテンキー入力方式とを兼ね備えるため、数値入力操作が簡便になる。

【0064】また本発明によれば、従前の入力数値を全てクリアしないで、「0」以外の数について部分的に訂正できるため、従前の数値入力操作が無駄にならずに済

み、全体の操作が簡便になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る情報処理装置の構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の第1実施形態を示し、図2(a)は表示内容の変化を示す説明図で、図2(b)はテンキー入力時の動作を示すフローチャートで、図2(c)は金種キー入力時の動作を示すフローチャートである。

【図3】本発明の第2実施形態を示し、図3(a)は表示内容の変化を示す説明図で、図3(b)はテンキー入力時の動作を示すフローチャートで、図3(c)は金種キー入力時の動作を示すフローチャートである。

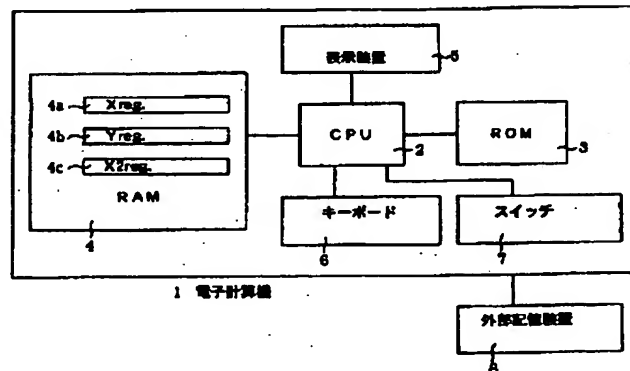
【図4】本発明の第3実施形態を示し、図4(a)は表示内容の変化を示す説明図で、図4(b)はテンキー入力時の動作を示すフローチャートで、図4(c)は金種キー入力時の動作を示すフローチャートである。

【図5】本発明の第4実施形態を示し、図5(a)は従来の訂正手順を示す説明図で、図5(b)は本発明の訂正手順の一例を示す説明図で、図5(c)は訂正動作を示すフローチャートである。

【符号の説明】

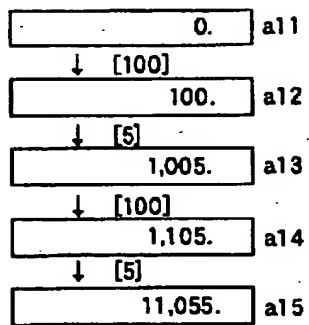
- 1 電子計算機
- 2 CPU
- 3 ROM
- 4 RAM
- 4 a Xレジスタ
- 4 b Yレジスタ
- 4 c X2レジスタ
- 5 表示装置
- 6 キーボード
- 7 スイッチ
- 8 外部記憶装置

【図1】

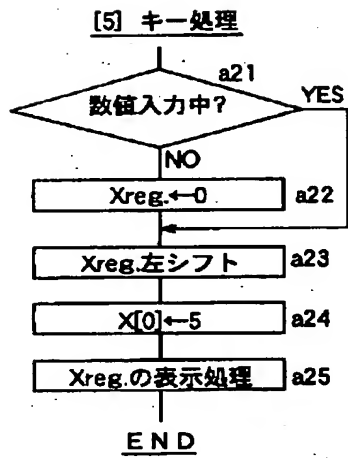


【図2】

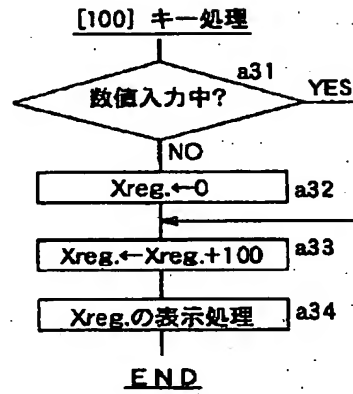
(a)



(b)

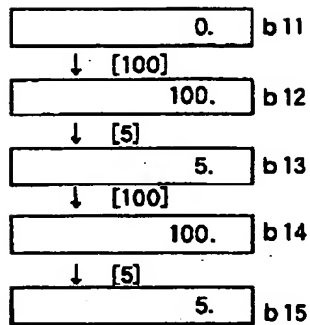


(c)

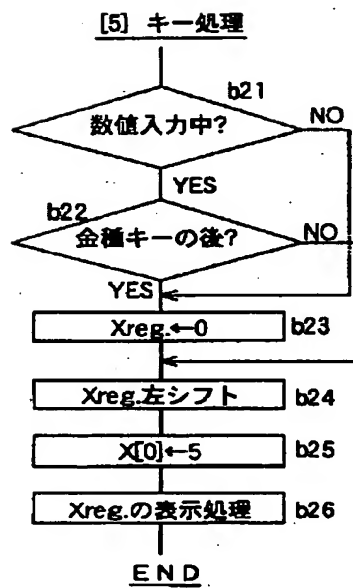


【図3】

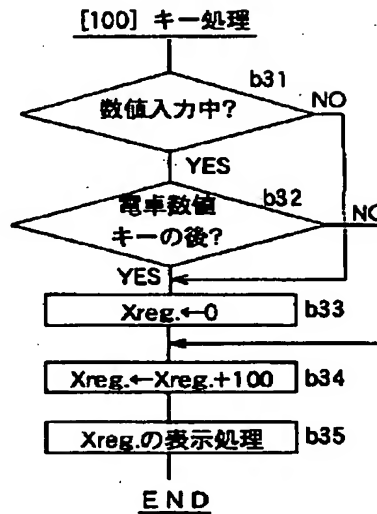
(a)



(b)

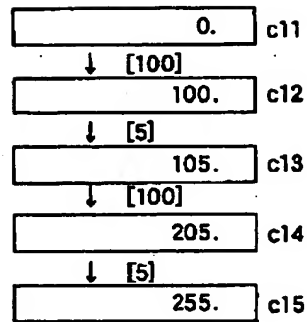


(c)

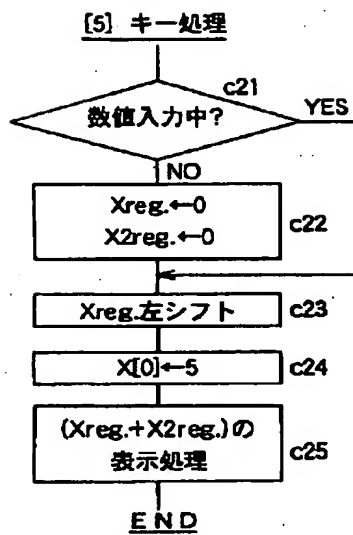


【図4】

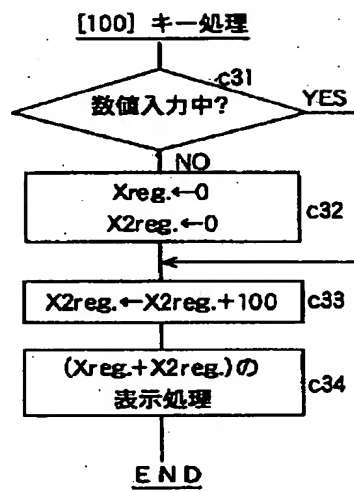
(a)



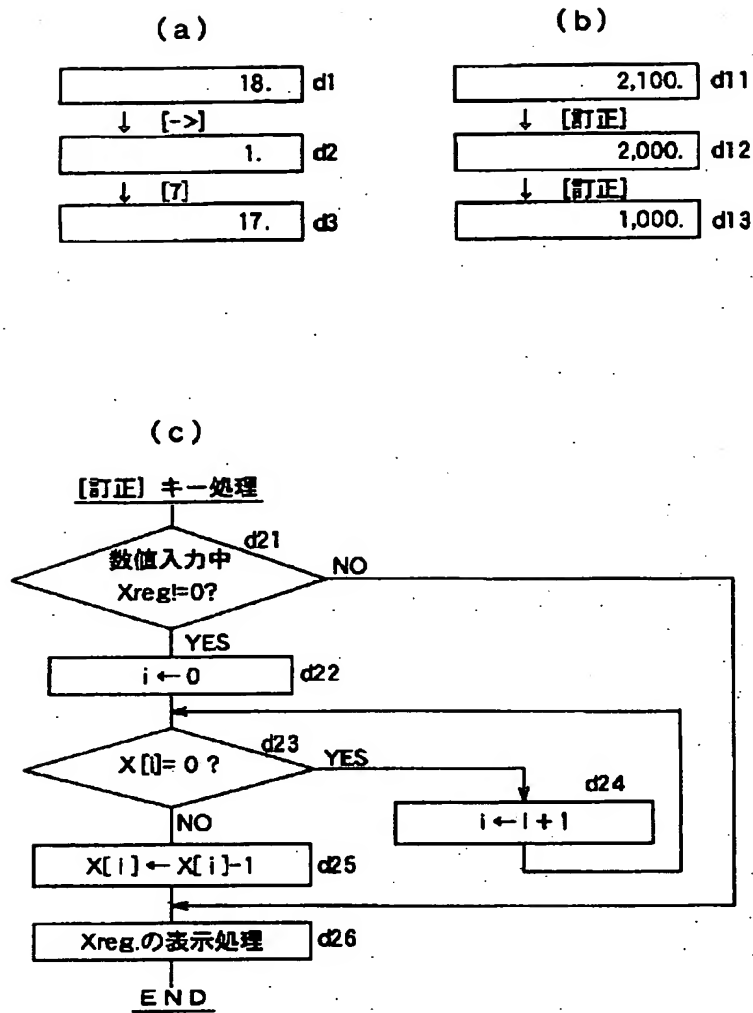
(b)



(c)



【図5】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.<sup>7</sup>  
G 0 7 G 1/12

識別記号  
3 0 1

F I

テーマコード(参考)

Fターム(参考) 3E042 CA01 CE06  
5B019 DA10 HB02 HB04 HC07 HG02  
HG26  
5B020 BB01 BB03 FF14 GG31 GG33